

### < 目次 >

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| 1 平成25年度ブロック総会挨拶       | 西尾張ブロック代表 尾関 博 |
| 2 平成25年度ブロック総会終わる      | 稲沢支部 川村 荘一郎    |
| 3 平成25年度防災教育指導研修会に参加して | 研修部長 原田 先夫     |
| 4 大口支部の活動状況            | 大口支部 大竹 伸一     |
| 5 扶桑町防災訓練の参加について       | 扶桑支部 河村 治生     |
| 6 クロスロードゲームに参加して       | 一宮支部 鶴飼 和幸     |
| 7 こどもワークショップに参加して      | 一宮支部 小木曾 澄子    |
| 8 60年前の事故              | 稲沢支部 川村 荘一郎    |
| 9 東日本大震災の対応と復旧、復興について  | 豊山支部 林 美知子     |
| 10 外国人の防災教育に参加して       | 犬山支部 三橋 みよ子    |
| 11 お知らせ 掲示板            |                |

## 1 平成25年度総会挨拶

西尾張ブロック代表 尾関 博

平成25年度の夏は酷暑で猛烈な暑さのなか、京都、伊豆大島の台風被害を始めとする台風の当たり年ではなかったかと思われれます。幸いにも風による被害は西尾張ブロックのなかではなかったと思いますが、ゲリラ豪雨による水の被害は、西尾張ブロック10市町においても被害が発生した地域もあったと聞いています。年が明けてからは、山梨県などが大雪により孤立する集落が相次ぎ、災害救助のため自衛隊を派遣する事態になりました。私自身にも何時どのような自然災害が起こるかわかりません。



阪神淡路大震災も今年で19年たち、東日本大震災も3年がたちました。東北では今なお復興作業が続いていますが、我々の住む地域では防災の意識が薄れつつある気がします。今後30年以内に70%以上の確率で訪れるであろう南海トラフ巨大地震に備え、自分達で出来る「自分の命は自分で守る」「家族を守る」「地域を守る」の防災・減災の啓発活動を進めなくてはなりません。

あいち防災リーダー会は昨年新に、小学校、中学校、高校の先生が対象の防災指導者研修会にもオブザーバーとして参加し、行政・学校・あいち防災リーダー会が一体となった活動が求められています。私達が気をつけなければいけないことは、「初心忘れるべからず」と、毎年開催される養成塾、各市町のリーダー養成講座を受講したとき教えられたことを思い出し、会員個々の思いを防災リーダーとして日頃から防災・減災に心がける必要があると思います。

最後に、今年新しく23名をむかえ、今日現在の西尾張ブロック会員は総勢178名となり、あいち防災リーダー会全体の四分の一になって、県下6ブロックで最大のブロックに成長しました。これからも防災リーダー会の会員として、活動していただきますようお願い致します。

## 2 平成25年度ブロック総会終わる

稲沢支部 川村 荘一郎

寒さの残る3月15日、平成25年度の西尾張ブロック総会が、北名古屋市の「もえの丘」にて開催された。

来賓の北名古屋市の防災指導監 大嶋 良治 様は、行政では財政などの制約も多く、皆さんへの期待が大きい。また「東北などは災害を受けてしまった所、この地方はこれから災害を受けるところ」という切り口で挨拶され、我々に対する期待と励ましの言葉と受け止めた。



北名古屋市長 大嶋 良治 様

議案第1号から5号までは滞りなく可決され、来年度の役員については右表のように決まった。

総会の終わりに、啓発活動時に掲示して活用するようにと、オレンジ色を基調とした西尾張ブロックの「のぼり旗」2枚が尾関会長から各支部に手渡された。

役 職	氏 名
代 表	尾関 博
副 代 表	川村 荘一郎
事 務 局	河村 文雄
広報部長	杉浦 緑
研修部長	有村 和人
会 計	安田 弘典
会計監査	飯田 榮子
会計監査	玉腰 一義

第2部の研修会では、一宮支部と稲沢支部から活動報告あった。一宮支部からは、パワーポイント33画面にて、自主防災活動、地域活動、学校防災などについて、つぶさに報告があった。

特に、連区と大雄会との合同防災訓練では、医師や看護師から専門的な見解を聞きながら、止血法や搬送法、骨折の応急手当法などの指導を受けることができた。このことは、新しい試みとして、今後のひとつの方向を示唆したものと言える自信に満ちた結びであった。

稲沢支部からは、愛知県防災訓練に、啓発資材を展示して参加したこと。また、いなざわ福祉まつりに参加して、リーダー会 会員の主宰するバルーンアートのグループの協力もあって、市民に楽しんで防災クイズに挑戦してもらえたことなどの報告をしました。さらに、60年前の稲沢中学校講堂の天井落下事故について、死者10人を出したこともあり、生々しい体験や防災の観点からの報告は興味をひきます。このことは、このAPLA通信にも詳細なレポートが掲載されているので、ご一読を。



西尾張ブロックのぼり旗の贈呈式

### 3 平成25年度防災教育指導者研修会に参加して

研修部長 原田 先夫

#### 〈趣 旨〉

愛知県においては南海トラフ大地震の発生が懸念されており、甚大な被害が予測されている。また、東日本大震災において、想定を上回る津波等の被害により多くの児童生徒・教員が犠牲となった。これらの現状とその検証を踏まえ、学校における防災教育・防災管理の一層の充実を図ることが喫緊の課題となっている。

そこで各学校において、児童生徒が自他の生命を大切にするとともに、危険予測・危機回避能力を高める実践的な防災教育や避難訓練を充実させるとともに、小・中・高・特別支援高、さらに行行政・地域住民の連携を図ることをねらいとして、指導者対象の研修会を開催し、より実践的な防災教育・防災管理の推進を図る。

全参加者 約 1,300 名

\*県内公立・小・中・高・特別支援学校より各校 1 名  
(名古屋市立校を除く)

\*各市町村教育委員会防災指導主事、市町村防災担当者

\*あいち防災リーダー会(延べ82名の会員が参加)

教育事務所管轄地区ごとに分けて5日間・6ヶ所で開催

主 催：文科省、愛知県教育委員会

共 催：愛知県防災局、愛知県建設部、あいち防災リーダー会



#### 〈内 容〉

伝達講習：「学校における防災教育と防災教育の実際」健康教育指導者養成研修

講 義 「愛知県における『みずから守るプログラム』の取り組み」 愛知県建設部河川課

連 絡 あいち防災リーダー会の活動について APLA 早川会長又は該当ブロック代表

情報交換会 事前に与えられた5課題から各校実情に応じてテーマを選択し報告する

前半：地域別&中学校区にて班別協議

後半：全体協議とし、班別協議で出てきた好事例や課題に対して意見交換する

必要に応じて、市町村防災担当者および APLA 同席者から助言する

課 題 5つの視点による防災マニュアル等見直し

テーマ①「学校・園の地域特性に応じた避難場所、避難経路の設定」

テーマ②「災害発生時における教職員の状況別役割分担の明確化」

テーマ③「避難所の解説準備や役割分担」

テーマ④「学校・園の所在地に適した避難訓練の計画、実施」

テーマ⑤「児童生徒を引き渡す方法の明確化と保護者への周知」

学校の発表からの取り組み等の紹介は、APLA 参加者の方からのレポートやコメントをいただいたものを一部紹介します。



1. 東三河地区 10月11日(金)午後 蒲郡市民会館  
豊橋市 豊川市 蒲郡市 田原市 新城市 設楽町 東栄町 豊根村  
(学校の報告から、注意すべきこと)

山間部のため避難場所が山と川の間位置しているのがけ崩れや土石流を警戒すべきである。  
極力コンクリート作りの建物を利用する。  
移動経路は校舎の山側でなく川側を避難経路としたい。

2. 尾張(中島)・海部地区 10月15日(火)愛知県総合教育センター  
名古屋市 一宮市 稲沢市 津島市 愛西市 弥富市 あま市 大治町 蟹江町 飛島村

(一宮/玉腰さんレポートから)

地域の特性の豪雨体験が、先生方の身近な体験で真剣な情報交換ではありましたが、地震については甘さが目立ち発災時に校内放送では、聞きにくい場所の把握、停電で放送できない事も起こる(ハンドマイクを使う)火災発生では、初期消火器訓練のみで消火栓を使用した経験なし、等々話し合う事ができた。



(名古屋/藤井さんからのコメント)

全体には子供の安全を鑑み真摯に取り組んでいただいていると感じますが、それぞれの学校での温度差、進展度の違いが感じられました。  
今回の研修に参加し、大変貴重な経験をさせて頂きました。来年度研修があれば、災害が来る前に自分、家族、友達、地域の皆様の命を守る方法などを生徒に伝えて頂きたいと思います。

3. 尾張(愛日)地区 10月18日(金)愛知県総合教育センター

春日井市 小牧市 瀬戸市 尾張旭市 豊明市 日進市 長久手市 東郷町 清須市 北名古屋市 豊山町  
保護者が学校への児童引き取りの際、学年ごとに決められた昇降口から校舎に入り通路を右側通行で児童の教室を回る。教室前より担任に「引き取りカード」を提出し児童を引き取り、教室の後ろから退出を徹底する訓練をしている。

4. 尾張(丹波)・知多地区 10月22日(火)愛知県総合教育センター

犬山市 江南市 岩倉市 大口町 扶桑町 半田市 常滑市 東海市 大府市 知多市 阿久比町 東浦町 南知多町 美浜町 武豊町  
昨年度途中より、J-ALERT(全国瞬時警報システム：緊急情報を瞬時に伝達するシステム)により初めての訓練を実施したが、カウントダウンが始まると怖くて落ち着いて机の下に隠れたり、窓を開けたり避難経路の確認、行動「お・は・し・も」(押さない・走らない・しゃべらない・もどらない)を徹底し生徒の安全を守る訓練を繰り返し行う。

5-1 西三河A 10月25日(金) 西三河総合庁舎  
碧南市 刈谷市 豊田市 尾西市 知立市 高浜市 みよし市

5-2 西三河B 10月25日(金) 岡崎市福祉会館  
岡崎市 安城市 幸田町

(幸田/渡邊さんレポートから)

学区と学校が一体となり、対策本部を区の役員、コミュニティ役員が担当学校は全職員が地域の一人として生徒担当、今後保育園、幼稚園近隣工場が合同で説明会を考えたい

(早川会長からのコメント)

県教育委員会には、学校の活動紹介(情報交換会レポート)から学ぶことも多く、各学校の情報交換からも防災・減災力が相互啓発により、レベルアップが期待できる。活動報告書を整理しまとめるよう切望。各学校及びAPLAへも配布(情報交換レポート集)いただけるように懇願しておきました。また、各会場では、ブロック毎の代表者から、各学校へAPLA紹介パンフレットを配布していただきました。

防災・減災活動におけるご相談や講師派遣などは、各ブロック長あて申し出頂き地域の防災・減災力向上に為に700名程の会員が支援します旨お伝えしていただきました。

## 4 大口支部の活動状況

大口支部 大竹 伸一

大口支部では 防災関係に関する周年企画として、9月に町行政と町内11地区で1地区10名ずつの参画で、総勢150名程の防災訓練を行っています。

この訓練には町行政と大口町社会福祉協議会からの依頼を受け あいち防災リーダー会の会員が所属する「災害救援ボランティア」の団体も協力し、図上訓練(DIG)講習、傷病緊急事態の対処等の訓練も行いました。また、11月の第1土日には町民ふれあい祭りを行なっており、会場ではあいち防災リーダー会の会員、さらには当団体の「災害救援ボランティア」方による災害時の非常避難具の作り方、炊き出しなどを行い、災害時の避難意識の向上に努めています。さらには、今年度で4回目となる大口町社会福祉協議会からの依頼を受け、災害養成講座フローアップ講座を5回に分けて行いました。

- 1日目：11月9日(土)  
オリエンテーション 丹羽消防署による災害時による応急手当講習他
- 2日目：11月16日(土)  
愛知県防災局防災危機管理課 政策 啓発グループ 主任 高柳 幸央様のご講演
- 3日目：11月25日(月)  
名古屋大学環境総合会館にて 福和伸夫センター長の語録 講和 など
- 4日目：11月30日(土)  
図上訓練(DIG)の講習
- 5日目：12月 7日(土)



DIG の講習



グループ発表

災害ボランティアセンター立ち上げの講義と運用訓練など、避難所への通路の危険箇所や通学路の危険箇所一人暮らしの方の避難経路などを、地区ごとに図面に落とし込むなど町民、区民の方に危険意識の向上へと繋がるであろうと強く確信致しました。昔からの 伝言言葉で 向こう三軒両隣と言われる様に、近所の方々とのコミュニケーションがやはり大切ではないでしょうか。

このような大訓練の積み重ねが、自身の危険意識を高め、老若男女の方々にも風水害地震災害など危険と言う意識、我が身は自分で守るという認識が養われると強く感じました。

## 5 扶桑町防災訓練の参加について

扶桑支部 河村 治生

扶桑支部は24年3月に立ち上げられ、防災啓発、支援活動を開始しました。

当初は扶桑町内の防災リーダーの人員が少なく、犬山支部に属し4年程度活動し、ある程度人員がまとまったのを機に分離独立したものであります。行政へのPRをへて扶桑町の防災訓練へ初参加したのが24年9月1日。立ち上げ早々で資機材、資料、要領などの不備を犬山、江南の両支部に依存するなどの強力なご支援、ご協力のもとで活動を開始したものであります。25年9月1日の扶桑町の防災訓練から本格的に活動すべく、防災グッズ、のぼり旗等を整備しました。

今回の防災訓練は柏森小学校で行われ、通常の防災グッズ等の展示のほかにHUG訓練を体育館で実施しました。4グループ30名弱で、消防団、自治会の防災関係者の方々に参加されました。防災訓練の一環で時間が短いのがネックでしたが、避難所の運営についての課題、気付きの第一歩には有効であったと考えています。同時に我々のスキル向上の必要性も感じた次第です。今後も皆様のご支援、ご指導を頂きながら、積極的に活動してゆきたいと考えております。

## 6 クロスロードゲームに参加して

一宮支部 鶴飼 和幸

平成26年1月12日(日)午前9時30分~11時40分まで、一宮市尾西庁舎5階B会議室に於て、伊藤善之副支部長を講師として「クロスロードゲーム」の研修会に参加しました。参加者は24名で、私は初体験のゲームでしたが、とても参考になりました。

「クロスロード」とは、「重大な分かれ道」「人生の岐路」のことです。このゲームは、阪神・淡路大震災において、災害対応にあたった神戸市職員が実際の対応において経験したジレンマの事例を設問として、参加者一人ひとりが、その対応に対してYESかNOかの意見を示し、多数決によって対応を決定します。設問に対する正解は示されておらず、なぜそのように考えたのかについて、参加者同士で意見交換することがポイントとなります。

班別は、7人班1組と5人班3組の4班に分かれてゲームが始まりました。



会場 尾西庁舎5階 会議室



スクリーンに設問を提示



判別にYES・NOカードを選択



リーダーがカードを開けて判定

「あなたは市の食料担当です。現在10か所の避難所に3,000人の避難者がいますが、救援食料は2,000食だけです。配りますか」など13問が出題されました。それぞれの問題に、5人班では全員一致となったり、3対2と分かれたりといろいろでした。7人班では、ほとんどが4対3となり、意見がはっきり分かれました。

多数派には飴が配られ、一人だけの貴重な意見には板チョコが配られるなど、お楽しみもあり、結果が出るたびに歓声が上がりました。そして、問題ごとに各自が自分の意見を発表し、班の中だけでも様々な考え方があることが分かりました。

その後、リーダーが各班の状況を報告し、様々な意見や価値観を参加者全員で共有することができました。災害対応においては、必ずしも正解があるとは限らず、ゲームを通じて、それぞれの災害対応の場面では、誠実に考え対応することが大事であると学びました。また、出題の解釈からすでに違う場合もあり、勉強不足を痛感しました。今後も、研修会には積極的に参加し災害に備えたいと思います。

研修会終了後、昼食会も開かれ、和気あいあいとした雰囲気の中交流を深めました。

## 7 こどもワークショップに参加して

君も未来の建築士！

「体感しよう、力と強さ」

一宮支部

小木曾 澄子

平成26年2月5日(水)、一宮市北方小学校体育館において、愛知建築士会一宮支部主催の「南海トラフ地震に耐えられる家」をテーマに開催されたこどもワークショップに、一宮防災ボランティアネットワーク伊藤善之代表の防災講話と建築士の防災クイズが楽しく行われました。

あいち防災リーダー会一宮支部6名も支援しました。

4年生3クラス100人位が、12グループに分かれて、厚紙(15cm×40cm)の赤色4枚をホチキスで丸め柱用として(半分に切り柱2本にしてもよし)、青色8枚は波折りにして壁用、黄色2枚は切って柱・壁用でも自由に使用可能として、計14枚の厚紙で設計図を作り、家の土台としてペーパーハウスを作成しました。その上にアクリル板を乗せて何人乗れるかを競いました。

児童1人が震度1とされ、南海トラフ地震は震度6か7と言われていますが、各チーム8人が協力して、地震に耐えられる



①まずグループごとに設計図作成



②そしてペーパーハウス作成



③完成！ハウスに一人ずつ乗って



④最高は12人も乗れました

ペーパーハウスを、ゲーム感覚で楽しそうに作成した結果、全グループが震度7～10にも耐えられる家が出来ました。

各チームには、建築士や防災リーダーもお手伝いとして参加し、単独でバランスが良い賞、デザインの美しい賞、多くの人が乗れる賞等々の表彰状が渡され、最後に「強い家を創る建築士になりたいと思った人」という問いに、10人程の手が上がりました。

## 8 60年前の事故

稲沢支部 川村 莊一郎

昭和28年某日 大変な事故が起きた。新聞。ラジオは「稲沢中学校講堂の天井落下」「芝居見物人多数の死傷」と大々的に報じた。(まだテレビのない時代のこと)

変な地響きがして、講堂の窓の隙間から煙のようなものがモヤモヤと出てきた。すぐに急変を知らせるサイレンが鳴り出した。講堂の天井が落下し、芝居見物の人達がとじこめられている。怪我人もいるらしい。新築落成記念の田舎芝居は有料講演のため、出入り口は一箇所を除いて施錠されており救出は困難を極めた。こんな時に限って予備の鍵はどこにあるのかわからない。先生はバットで窓ガラスを叩き割ろうとしたり、鉄の扉に体当たりをしている。盗難防止用の網入りの分厚いガラス窓はびくともしない。そのうち助かった人たちが助け合いながら出てきた。

〇□△さん が天井の下敷きになって動かなんだ、恐ろしさにブルブル震えながら訴えていた。ようやく看護婦、消防団員、警察官、役場の人達の動きも激しくなってきた。

1200人の生徒は、運動場の端に集合し、校長先生から次のような支持をうけた。

家族や町の人達が大変心配している。3年生の男子をのこして直ぐに帰宅せよ。中学生は誰も怪我をしていない旨、道行く人に伝えながら帰れ。早く帰って家族に無事を知らせて安心させろ。これが早く帰る者の役目だ。3年生男子は4人一組で中へ入り怪我人の救出を手伝え。また4人一組で怪我人を長椅子にのせて隣の町立病院へ運べ。

40人の先生はグループを作り、救出、生徒への支持、防火盗難防止、来訪者対応などにあたり、校長は役場・警察・消防への対応にあたったことが功を奏した。これは、先生が兵隊帰りや軍人教練の経験者もあり、統率が容易であったといえる。緊急時のマニュアルがあった訳ではない。短時間のうちに機能させた統率力・組織力・行動力・伝達力について、論じ考え分析することは、防災を学ぶ我々にとって60年前のこととはいえ、一つの教材になるのではないか。



当時、在校生として体験したこと、同窓会の折に恩師や同級生に聞き取りをしたことをまとめて、APLA の場を借りて諸兄に報告する。

#### 参考事項

稲沢中学校：先生40人 生徒1200人・生徒は授業中  
 役 場：中学校の北隣 町民病院は中学校の西隣・開設2年目  
 判 決：釣り天井の重さに、構造金具が耐えきれなかった

## 9 東日本大震災の対応と復旧・復興について

豊山支部 林 美知子

2月22日(土)、北名古屋市で「あの日を忘れずともに未来へ」をテーマに、東松島復興対策本部 市民生活部長「大友 利雄様」の講演会が開かれました。

津波によって東松島市全体の面積の36%が浸水し、死者1109人、行方不明者25人、家屋全壊数5499棟にのぼる甚大な被害だったそうです。

また、大勢の来賓の方のなか大村知事のお言葉も賜りました。

この尾張地区においては地震、台風等はあっても、おそらく「津波」「山崩れ」は縁がないと思います。テレビ、新聞等マスコミで地震について調査している大学教授の方が「食料品、飲料水」など一人一週間分は確保するよう云われていますが、体験者の東松島市では(3日分で充分)といわれました。何ごとも「自助 共助 公助」といわれるが、やはり自助が一番「自分は自分自身で守る」ことが第一、最終的には公助になるが・・・

東日本第震災で体験し学んだことは「甚大な被害を直視する」「現実に起きたことに立ち向かう」そして復興するまで諦めない心だと言っておられました。

今までに私達の住んでいるところは大きな災害がありませんでした。これまで他人事しか思えませんでした。減災・災害の勉強をしなければと思います。避難訓練も大切な課題ですね。

## 10 外国人のための防災教室に参加して

犬山支部 三橋 みよ子



起震車

1月26日(日)犬山国際観光センターフロイデにて「日本で生活して行く上で必要不可欠な知識と出来る事、すべき事を学んでもらおう」と、スペイン語、タガログ語(フィリピン)、ポルトガル語、中国語の各通訳の方が見え開催されました。



搬送・運搬の講習

地震災害のビデオ、東日本大震災で被害にあわれたキラトンロデル夫妻の体験談、早川代表の講話、起震車体験等々行われました。また、大声で「助けて～」と日本語で叫ぶ声の大きさも測定されました。いざと言う各国の言葉で叫ばれても、何をいっているのか解る人ばかりいるとは限りません。私はこの教室に参加させて頂き、沢山の事を学ばさせて頂きました。

本来、外国の方に防災意識を高めてもらう教室だと思いますが、改めて私自身が今一度災害について考えてみたいと思いました。

## 11 お知らせ 掲示板

※ 平成 26 年度 第 12 回定期総会(本部定期総会)

日 時：4月19日(土)

場 所：名古屋大学 減災館 1 階 (名古屋市千種区不老町)

第1部 総 会：午前 10 時 30 分～12 時 00 分(午前 10 時 受付開始)

第2部 防 災 講 演：午後 1 時 00 分～2 時 30 分

名古屋大学減災連携センター 福和 伸夫 教授

第3部 減災館見学：午後 2 時 45 分～4 時 30 分

※ ライフガード TC2014 (防災啓発参加)

日 時：5月22日(木)23日(金)

場 所：名古屋ポートメッセ

### 編集後記

平成 25 年度西尾張ブロック総会も滞りなく終わることができました。  
総会当日ご出席いただきました各位には御礼申し上げます。

さて、4月19日に本部総会が開催される名古屋大学 減災館は、3月12日に完成し5月以降に一般公開される予定です。総会当日の減災館見学は、あいち防災リーダー会のために先行して行われるものです。

これまで ES 総合館 4 階にあった名古屋大学 減災連携研究センターは、新しい減災館に拠点が移りました。

減災連携研究センターは平成 22 年 12 月に名古屋大学に設立され、南海トラフ巨大地震、近年頻発している風水害に対し、産官学民の地域密着型の連携を通して、これらの被害を軽減するための研究・人材育成を行うことを目的に設けられたものです。

(名古屋大学 減災連携研究センターのホームページより抜粋)。

あいち防災リーダー会には、これまでも防災・減災に関する知識を提供・指導して頂くなど連携を深めてきました。新しい減災館では様々な資料の展示・講演なども企画されており、これらを通して今後も、防災・減災を学び地域に啓発活動を行ううえで中心的な存在、橋渡しの役を担って頂けるものと思われま



減災館全景(名古屋大学ホームページより転載)